（1）自己紹介・経歴

作家名：セバスチャン・C・クロフォード（本名：板垣　丈夫）

1967 年生まれ
1983 年 中学卒業後　電器メーカ協力会社に勤務
1987 年 定時制高校卒業後 機械メーカに勤務
　　同時に京都工芸繊維大学 短期大学部に入学
1995 年 青年海外協力隊員として、インドネシアへ赴任（電子機器隊員）
1998 年 帰国後、約 1 年の浪人後、（株）東芝グループ会社に営業職として入社。
インドネシア在住中、同僚の青年海外協力隊員（シンクロナイズドスイミング）がアジアの水泳競技の祭典“SEA GAMES”の参加に際し、不用意な発言により、現地メンバーから、仲間はずれにされる事態が発生。

なんとか、助けてあげようと買ったばかりの一眼レフ（フィルム）で、すべてのシンクロ競技を撮影、同僚を通し、写真を現地メンバーに届けてもらったところ、その後、大変、喜ばれ、関係が改善したことをきっかけに本格的に写真撮影に取り組むようになった。

帰国後は、父の遺品のカメラ・レンズで撮影を続けるものの、結婚前後の多忙により、中断。子どもの幼稚園入学とともにデジタルカメラでの撮影を開始。しばらくは、同級生の親御さんへのプレゼント用にとどまったが、2020 年より、作品創りに挑戦中。

（受賞歴）

アート・オリンピア 2022　佳作 表彰。

（2）制作の動機

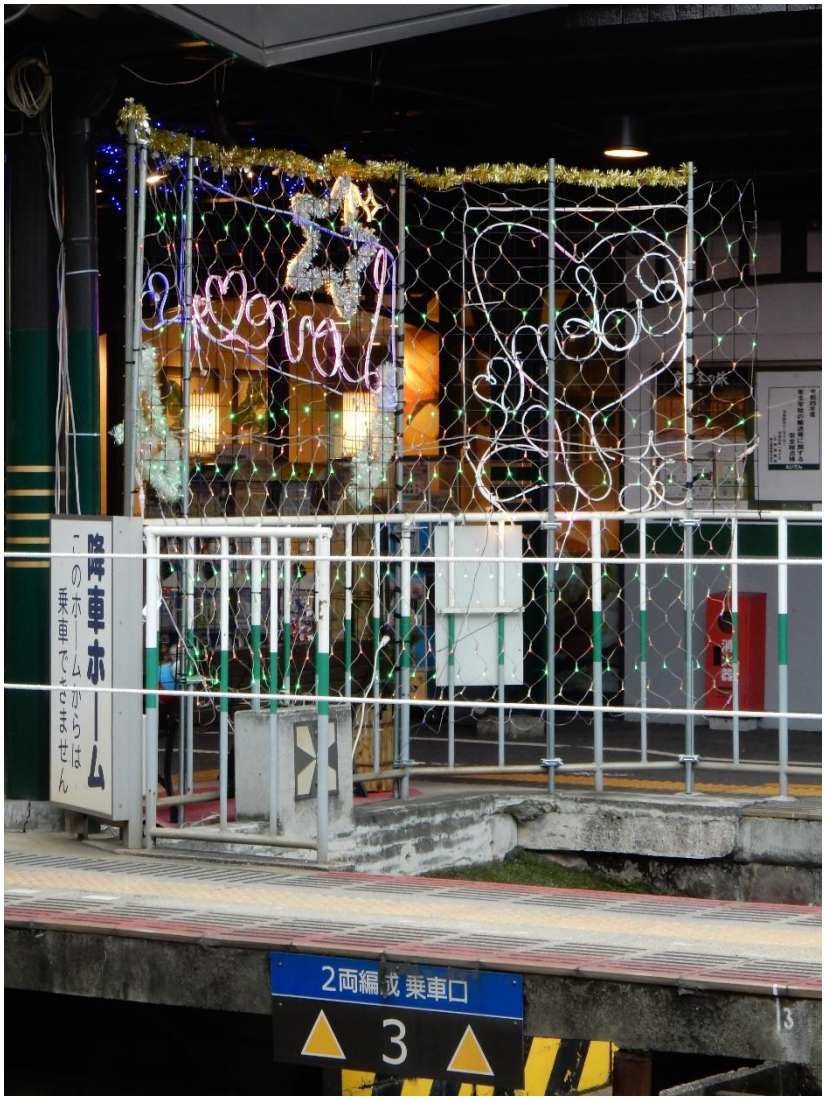
フォトコンテスト等において、日常とかけ離れたドラマチックなシーンなどが目立つが、あくまで、日常の生活の延長としての“美”の追求をしていきたい。と考えている。
今回も、日常の生活圏の中での一コマ、一コマを切り取る中で、どこまで、表現出来るかに挑戦してみました。色々な場面を撮影する場合がありますが、通勤の際の風景をコンデジで切り取っています。

（3）テーマの説明

組み写真テーマ：鉄路

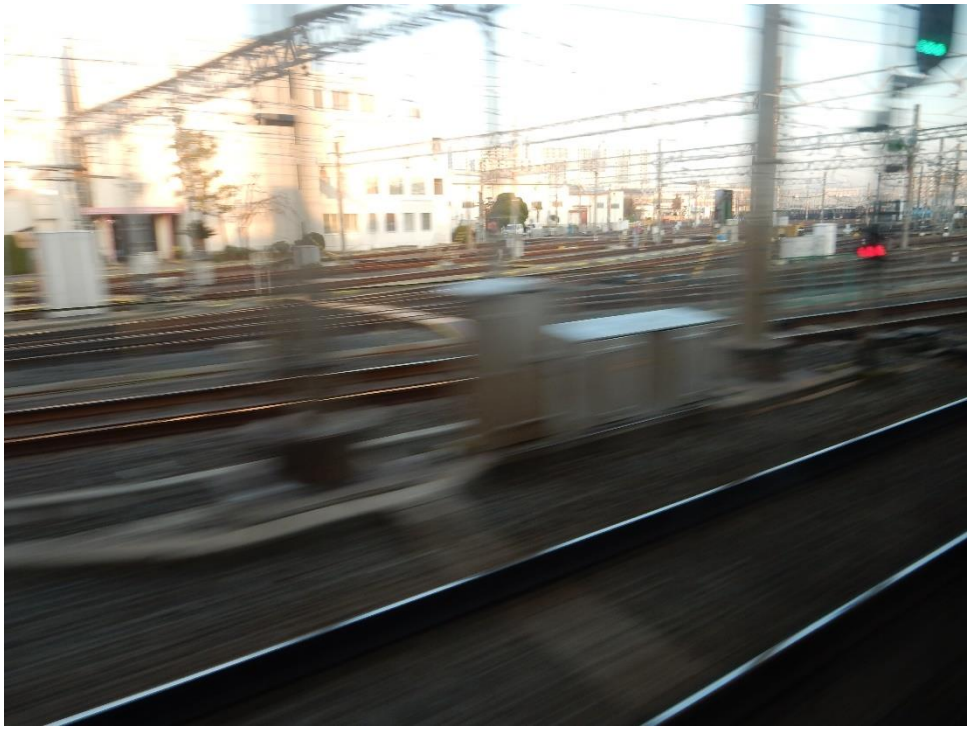
通勤電車の行き帰りのほんの数十分。車窓から流れる風景は、毎日同じようで、日の出、日の入りの時間の変化、また、行き交う人、車の見え方が異なる。少しの光線の違いで、見え方が異なってくる。建物でさえ、生き物の様に、また、人格を持っている様にさえ、見える。それぞれに何とはない、美しさを兼ね備えている様だ。

（4）作品画像



構内のデコ

夕映え



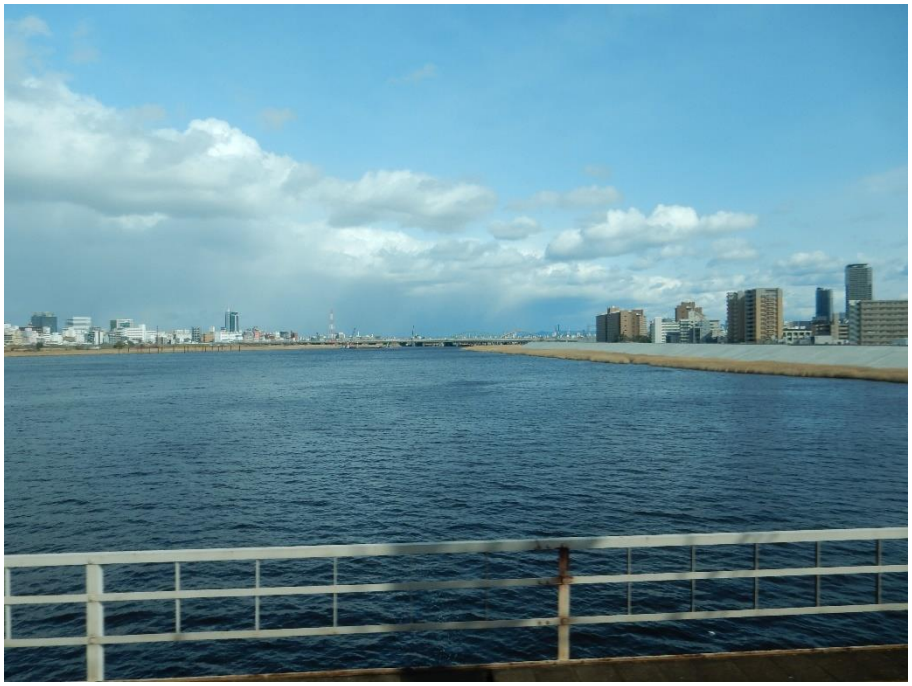
複々線

疾走

鉄橋越しの風景

欄干

通勤



淀川

車両

梅田スカイビル

看板

鉄橋とビル群

（付録）　インドネシアでフイルムカメラでの撮影、デジタイズ化。